

HALLOWEEN

SMILE

☆ 今月も笑顔（スマイル）でスタート！～

10月号 Vol.34

## 今月の SMILE

## 中国の財政状況

まいど おおきに！

国慶節及び中秋節で10月1日から8日にかけてお休みでした。休暇はいかがでしたか？  
今月は、中国の財政状況について取り上げてみたいと思います。

中国の中央政府は政治的には34ヶ所の省級行政区に分けられていますが、財政的には31ヶ所と5ヶ所の計画市（深セン、大連、青島、厦門、及び寧波）に区分しています。そして財政的に黒字のところから赤字のところへ補てんする「財政転移支払」という制度を設けています。政府からの正式な統計結果ではありませんが、2017年の上半期の財政状況が報道されていました。それによると中国の長男といわれる東北3省（遼寧、吉林、黒竜江）では2,575億元の赤字でした。かつて毛沢東の時代では、最も早く工業化や都市化を行ったところが、今は経済転換の最も難しい地区となっています。次に華北片区3省（山東省、天津、河北。北京を除く）も1,905億元の赤字です。山東省は2016年から赤字（青島が財政上山東省に属さないことからの理由もある）、天津も一人当たりのGDPでは中国トップですが、国有企業が多くこれらの企業の投資に強く影響を受けていることが赤字要因となっています。辺境地区で慢性的に財政難となっている西北片区7省（寧夏、青海、山西、甘肅、陝西、内モンゴ、新疆）で5,821億元の赤字。現在の重点開発地区で最も資金を必要とする西南片区6省（重慶、西藏、雲南、貴州、広西、四川）は7,040億元の赤字。人口が多すぎてお金がいくらあっても足りない中部片区6省（海南、安徽、江西、湖北、湖南、河南）で8,008億元の赤字。上記25省で合計25,349億元の赤字となっています。

この赤字を埋めるべく、黒字の省（市）は、福建、深圳、江蘇、浙江、北京、上海、広州（深圳除く）の6省1市です。その合計17,281億元の黒字です。それでも2017年上半期で全体的には、約8,068億元の赤字となっています。

このスマイルをお読みの方は、上海や江蘇省、浙江省が多いので、皆様が稼いで納めた税金は、赤字の25省のために使われている、ということも言えますね…。

では今月も笑顔（スマイル）でスタートしましょう！



## 中国経済情報

### マクロ経済情報

#### 今年8月の消費者物価 1.8%上昇 7カ月ぶり高水準

中国国家统计局は9月9日、8月の消費者物価指数(CPI)が前年同月比で**1.8%**上昇したと発表した。伸び率は7月から**0.4**ポイント拡大した。伸び率は今年1月(2.5%上昇)以来7カ月ぶりの高水準だった。分野別に見ると、教育文化・娯楽や医療保健、生鮮野菜、酒類が上昇した一方で、豚肉や食用油が下落した。同時に発表した8月の工業品卸売物価指数(PPI)は**6.3%**上昇し、伸び率は7月から**0.8**ポイント拡大した。

#### 中国の輸出再減速 8月5.5%増、6カ月ぶり低い伸び

税関総署が9月8日発表した8月の貿易統計によると、ドルベースの輸出額は前年同月比**5.5%**増の**1,992**億ドル(約**21兆5千**億円)だった。伸び率は今年2月にマイナス**1.3%**を記録して以来**6**カ月ぶりの低水準だった。輸入は前年同月比**13.3%**増の**1,572**億ドルだった。伸び率は7月(11%)より拡大した。輸出から輸入を差し引いた貿易収支は**419**億ドルの黒字で、黒字幅は同**19%**減った。

## 会計・税務情報

### あなたの携帯番号を税務局に登録することになりました

9月に御社の会計担当者から、駐在されている方の携帯電話番号を聞かれませんでしたか？これは9月から個人所得税の申告の際に、会社員の携帯番号を記入することが、まず上海から実施されることになったことに起因しています。

上海市税務局は、**2017年9月1日**から、個人所得税源泉徴収申告データの品質管理業務の必要性から、納税者の個人所得税源泉徴収納税申告の際に、必ず「人員情報登記」において、実際に勤務している従業員の携帯番号を正確に記入することを求めることにしました。**9月**は情報の登録期間であり、**2017年10月1日**から、未記入携帯番号の申告データはネット申告ができなくなりますので、ご注意ください。

この措置は、税務局が調査重点項目を個人所得税としていることかもしれません。というのも給与所得における会計処理の以下のような誤った行為が多いと言われています。

1. 企業所得税を減らすために架空賃金給与所得が存在している
2. ゼロ申告が多く存在する
3. 賞与に関する優遇制度を悪用している
4. 個人所得ではなく他の税項目で申告している
5. **2カ所**以上から給与をもらっているにもかかわらず、**1カ所**の給与しか申告していない

昨年、税務局が税務システムを大幅にパワーアップして以来、緻密なデータの収集により、個人所得税の面でも厳しくみることになりそうです。



## 法務情報

### 労働仲裁の時効について

今月は、労働仲裁の時効について取り上げてみたいと思います。

中華人民共和国主席令(第80号)労働調停仲裁法(以下、仲裁法とする)の第27条に労働仲裁の時効が定められています。それによれば、「労働争議の仲裁への申請の時効は1年とする。仲裁時効期間は、当事者が知る、若しくは当該権利侵害を知りうる日から起算するものとする。(中略)労働関係が継続している間に労働報酬の未払により紛争が生じた場合には、労働者による仲裁申し立ては、本条第一項で定められている仲裁時効の制限は受けないものとする。但し、労働関係を終了した場合には、労働関係の終了日から起算して1年以内に申し立てを行うこと」となっています。

従って、労総仲裁の時効に関するポイントとしては、労働紛争の仲裁は、原因が発生してから1年が時効期間であるが、仲裁労働関係が継続している間の労働報酬の未払に関しては、当該時効期間は適用されない。そして労働関係が終了した場合には、(未払の労働報酬に関する紛争の)時効期間は、労働関係の終了日から1年間となります。

### 労働仲裁の時効は?

労働紛争原因発生 → 1年以内

労働報酬未払は → 退職から1年以内



## 人事労務情報

### 工傷保険(労災保険)について

工傷保険は、日本の労災保険に該当します。納付額は、前年度の給与総額から算定された社会保険の基数に工傷保険の納付料率を乗じて算定します。個人負担はなく、会社負担のみです。

工傷保険の納付料率は、《国民経済業界分類》(GB/T4754-2011)における企業の業種別リストに基づき、異なる業種の労災リスク程度により1類から8類まで区分されています。

全国工傷保険業種別の基準比率は、**0.2%、0.4%、0.7%、0.9%、1.1%、1.3%、1.6%、1.9%**となります。社会保険料取扱機構が企業の登記・登録内容と主要経営生産業務等の情報によりその業種別労災リスク類別を確定します。

上海市は、企業の工傷保険料負担を軽減するため、**2015年10月1日**より、上海市第2類から第8類の企業に対して納付比率の引き下げを実施し、該当業種基準比率の**80%**に基づき徴収することになっています。すなわち、業種別第1類から第8類までの企業は、それぞれ**0.2%、0.32%、0.56%、0.72%、0.88%、1.04%、1.28%、1.52%**の納付比率に基づき工傷保険料が徴収されることとなります。

なお、社会保険取扱機構は各企業の工傷保険料使用、労災事故の発生比率、職業病のリスクなど状況に基づき、工傷保険納付比率を変動させる可能性があります。

組織を劇的に変える！ 「見えない資産を掘り起こそう」 (前編)

株式会社 バリュークリエイト 代表取締役 三富正博 氏

☆ 会社にとっての資産とは？

会社にとっての資産とは、なんでしょうか？「従業員」「チームワーク」「商品」「店舗」「歴史」「現金」「理念・ビジョン」……など挙げられますね。  
皆さんはいくつの言葉を思いつきましたか？

◇資産は大きく2つに区別してみましょう

- 「見える資産」……数字で把握される資産
  - ・物的資産(建物、土地)
  - ・金融資産(現金、売上債権、たな卸資産)
- 「見えない資産」……数字で把握されにくい資産=いわゆるブランドです
  - ・組織資産(理念・ビジョン、趣意書、戦略等)
  - ・人的資産(従業員、取引先、納入業者等)
  - ・顧客資産(ロイヤルカスタマー、潜在顧客等)

「見える資産」とは、貸借対照表といった財務諸表にあらわされる資産です。「見えない資産」は、それ以外のものであり、さらに3つに区分されます。

例えば従業員は「見えない資産」に分類されていますが、「見える資産」では、「人件費」として扱われています。両者は相互関係があり、深いつながりがあります。「見える資産」である売上や利益は、「見えない資産」である従業員がサービスや製品を顧客に提供することで生み出されます。そのため「見える資産」の源泉は「見えない資産」にあるとも言えるのです。

◇企業価値を創造する「5つの資産」

企業経営においては、「5つの資産」の間に好循環が働くことが望めます。そのためには、「見えない資産」をないがしろにせず、むしろ大切に扱うことで、良い影響が社内すみずみに行き渡るようにしたいものです。従業員や取引先がニコニコと機嫌よく、イキイキと働き始めることが、好循環が生まれ始めた証となります。

会社の資産について、意外と見落としがちなキーワードに「戦略」があります。戦略は「見えない資産」の「組織資産」に分類されます。他社の模倣でもそれなりに拡大できた時期は過ぎました。現在における戦略とは、強みがあつて機会があるところでビジネスする、とも言い換えることができるでしょう。

企業価値を創造する「5つの資産」



## ☆なぜ「見えない資産」の重要性が高まっているのか？

世界の覇権が日本から東南アジアや中国に移っている今、日本の置かれた状況は**30**年前のアメリカに似ていると感じます。**1987**年前後は、半導体や車をめぐり、日米で経済摩擦が起きている頃でした。デトロイトでは、日本製の車がハンマーで叩かれ、株価暴落のブラックマンデーもありました。

アメリカの競争力の源泉であった製造業が、安くて良い製品を生み出す日本の台頭により、凋落してしまいました。これまでのやり方が通用しないため、アメリカはイノベーションを必要としていました。日本でも今、イノベーションが切実に求められています。

### ◇ドラッカー氏の予言

**P・F・ドラッカー**氏、「プロフェッショナルの条件」(2000年7月)で、**1980**年代に日本が経済的に反映したからこそ、その反動として停滞期が訪れ、**2010**年か**2020**年まで続くと言っています。個人的には、日本が浮上するには、さらにあと**10**年以上が必要となるのではないかと考えます。

### ◇現状の認識

現在は、経営の前提となる様々な事柄が激変していることを認識しているでしょうか？以前までは、「お客様」の獲得が重要視されていました。それは、「お客様」がもたらす利益が競争力の源泉だったからです。しかし現在は、少子高齢化であり、人手不足の時代です。「社員の採用」が競争力の源泉となるのです。

転換期にあたる今は、「人材」「戦略」といった「見えない資産」の重要性が高まっています。「見えない資産」と「見える資産」とバランスを取りながら、企業の本質を高める努力をすることが必要となります。

後半は次号に続きます。

## 大転換期の前後を整理する

1945年から1991年まで	1991年以降
平均寿命は65歳(1960年)	平均寿命は85歳へ(2060年)
貧しい国が世界で3番目の経済大国へ	既に豊かな国がこれからどうなる
「安くて良い」日本製がグローバルに競争力があつた	その役割は中国、韓国から東南アジア、将来的には印度、アフリカへ
世界の覇権がアメリカから日本へ移行	その覇権は日本から韓国、中国、さらには東南アジアの国へ移行していく
デトロイトで日本車がボコボコに	何も起こっていない！（凄いいことである）
人材ボーナス期にあり若い人が社会へ持続的に大量に参入	人材ボーナス期にあり現場に経験者がたくさんいる状況
過去の延長に未来があつた	自分たちで未来を創る
年長者が一番賢い時代	年長者が必ずしも賢くない時代
上下の命令が効きやすい	上下の命令が無意味な局面へ
顧客獲得が競争力の源泉	社印の採用が競争力の源泉に

第30回クラブCA 三富様講演資料

(情報提供: 日本クreas税理士法人)



ナニワのおっちゃん経営道！ 中国駐在について語る！

第 30 回 ： 「私の特技は“物忘れ！”・・??」

私は、若いころから“物忘れ！”が、「得意」でした。そして私はひそかに、これを自分の「特技」とも思っていました。ただ、世間では、これを「特技」と言うのでしょうか・・・？「まさか！？ それは、大きな“弱点”でしょ！」と、言われてしまいそうですよね。ところが、“物忘れは特技だ！”と考える、私の自己弁護的で、手前味噌な考えを、肯定するような本が、ふと目についたのです。

その本には、「“物忘れ”は、思考上の技術なのです！」・・・と前向きに捉えて良いように書かれていたのです。その本の名は、「思考の整理術」-問題解決のための忘却メソッド-(前野隆司著)です。私が、66 歳の時に出会った本なのですが、その一節に「もう、単に覚えることに四苦八苦してしまうでしょうし、この年齢になれば、記憶に(時間を)費やす意味はありません。記憶のために時間を費やすより、違うこと(創造的なことや総合的なことなど)に費やした方がいい」と書かれていたのです。私が、ずう～～と抱いていた、“物忘れは特技だ！”という私の考えが、決して捨てたものではない！・・・と第三者により証明されたのです。

また私は、昔から、なんとなくですが、人間の脳には、二つの脳(能力)があり、「一つ目の脳」は“記憶力”(過去の事へのエネルギー)であり、「二つ目の脳」は“忘却力・創造力”(未来の事へのエネルギー)・・・であると思っていました。そして自分の脳は、ある事象が終った時点で、「一つ目の脳」の“記憶力”をパスし(忘れ)て、すぐに「二つ目の脳」の“忘却力”にはしる癖があると思っています。これは、終わってしまったいやな事をすぐに忘れ、その次にやってくる、自分の素晴らしい未来に、意識が行ってしまう“いい癖だ！”と言えるのではないのでしょうか？！

更なる“忘却力”のメリットは、過去にあった実際のシーンを、早くに忘れてしまう結果、同じ事象でも、新たなシーンのごとく、常に“新鮮味”のあるシーンとなって再現されることです。同じことでも、新たな“感動”として捉えられるのです。得したような気分になりますよ。

困難なことの多い駐在員の方々、どうぞ“前向き人間”で！

お問い合わせは  
MYDO まで!!



(お問い合わせ先)  
上海滿意多企業管理諮詢有限公司  
〒200336 上海市長寧区 延安西路 2201 号  
上海國際貿易中心 2415 室  
TEL: +86-21-6407-0228 FAX :+86-21-6407-0185  
E-mail:[info@shmydo.com](mailto:info@shmydo.com) URL: <http://shmydo.jp>